

かの本地と云ふ事どもういふやうに鷹の神といひし事明
けし重名云此説遠は似れども彼四佛は鷹匠を加へて
五佛と云説よりもよりと云ふあるやうに思ふに鷹匠を
武士のなまじりたる先づ軍の調練又山川の地理を志す
為又所の名を志すむめ且る炎の人歩立の駿足を
試るなるよりまづ金く治世は亂世を忘れざる武
士のなまじりたる道成べしその理あるやうに鷹匠の得物の
有無をもとく其日の勝負と云へり也日本書紀神功
皇后御卷曰先日教天皇者誰神也願欲知其名建
七日七夜乃答曰神風伊勢國之百傳度逢縣之